



元祖ヒポクラテスの木
(ギリシャ コス島)

西洋医学の源流から 時空を超えてやってきた

生きた遺跡

櫻園通信 52. 平成 31 年 2 月

東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー

稲松孝思 顧問医
宮本孝一 老年学情報センター

東京都健康長寿医療センターの大きな白い看板のうしろに、プラタナスの木が植えられています。センターの新施設建設・移転の際にこの場所に植えられました。

この木はもともと、東京大学医学図書館（文京区本郷）の前にあるプラタナス（ヒポクラテスの木）の下に生えていた実生苗でした。2012年に許可をもらって苗を入手し、写真のように植木鉢で育てて、リハビリテーション前の屋上庭園に地植えし、2014年春に現在の場所に植え替えました。

東大の木は、1976年にギリシャのコス島から入手した苗が育ったものです。さらにその親の木は、ヒポクラテスの生まれたコス島の、西洋医学の源流となった場所に立つプラタナスの木です。西洋医学に大きな影響を残し、今も「医聖」「医学の父」と呼ばれるヒポクラテスが、その木の下で医学教育を行ったとされ、**ヒポクラテスの木**と呼ばれています。

東京都健康長寿医療センターの正門脇で育てているプラタナスは、西洋医学の源流からはるばるやってきた“生きた遺跡”なのです。（**櫻園通信 11号 2014年**）

2012年から育てられた健康長寿医療センターの**ヒポクラテスの木**の、2019年現在の姿をみてみましょう。



撮影 2014 年 4 月



撮影 2019 年 1 月

細い苗を支えていた支えの棒を、成長した幹がのみこんでしまいました。









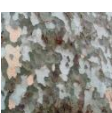

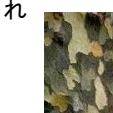
植えた時に指の太さぐらいだった幹は、だいぶ太くなりました。木の高さも、センターの大看板を越える高さに成長しています。

プラタナス（スズカケノキ）は大別して3種類あります。（**櫻園通信 12 2014年**）。

①プラタナス…ヒマラヤ原産。ヨーロッパにも分布。**ヒポクラテスの木**もこの種類。

②アメリカスズカケノキ…北米原産。

③モミジバスズカケノキ…①と②を、18世紀のイギリスの植物ハンターが、庭に並べて植えておいたら自然交雑して出来た雑種です。その後、品種改良され、2種の遺伝子が混ざりあった多くの株が作られました。これらを総称してモミジバスズカケノキと呼ばれます。

	プラタナス	アメリカスズカケノキ	モミジバスズカケノキ
葉	 切れ込みが深い	 切れ込みが浅い	 切れ込みは葉身の半分
実	 3~5個が縦に並ぶ	 1個づつ	 2.3個が縦に繋がるか、または枝分かれ
樹皮	 大きく剥がれる	 縦に割れ目剥がれない	 大きく剥がれる



赤…1つの柄に3、4個ぶらさがるヨーロッパ型
 黄…2個づつぶらさがるモミジバ型
 その他…1つの柄に1個

日本各地に植樹された**ヒポクラテスの木**の子孫は、挿し木で増やされたもの、実生苗から育てた木など、日本全国の医育機関などに100本以上植えられています。その、葉や実や幹を仔細に見ると、それぞれに異なる点があり、アメリカプラタナスの遺伝子が混じっているようで、ギリシャの親木の単純なクローンではないようです。

健康長寿医療センターの**ヒポクラテスの木**はどうか。写真は葉が落ちたあとに撮影したのですが、中東型（縦に数個）、アメリカ型（1個づつ）、モミジバ型（2個セット）が混在しています。もっと早い時期に観察した時も3通りの実が見られました。

幹の樹皮をみると、タテに細かくひび割れるアメリカ型と、不定形に剥がれる部分とが混在していました。全体的に見ると、若い木のせいか樹皮が剥がれていない部分が目立ちます。プラタナスの樹皮に種の違いが顕著に表れるのは老木になってからです。

ヒポクラテスは2000年以上昔の人で、ギリシャの**元祖ヒポクラテスの木**も何代目かの子孫です。健康長寿医療センターの**ヒポクラテスの木**も単純なクローンではなさそうです。

医学の道も、時を経る中で、少しく変わってゆくのでしょうか…

なお、実は集合果で、その形からスズカケノキとも言われます。



アメリカ型？



プラタナス型？

同じ幹で、場所により樹皮の形状がちがっている



スズカケとは、山伏が着る装束の名前